

平成23年実施（長野県地域発元気づくり支援金事業）
～地域の森を活用して、育て、次世代に継承しよう～

「北原区ふるさとの森」を整備

森林は、水と豊かな自然系を育み、地域住民にとって欠かすことのできない貴重な自然です。地域住民は、この自然を守り、育て、活用しながら次世代に引き継がなければなりません。

しかし、昭和40年代以降、急激な経済成長と都市化の進展は、林業労働者の減少、林業諸経費の高騰を招き、林業情勢は極度に悪化し、森林資源の確保を図ることは難しくなり、その結果、熊等の鳥獣被害や土砂崩れの被害があちこちで発生しています。

そこで、森林を活用しながら次世代に引き継ぐために、既に間伐されて放置されている間伐材を活用して、北原集落の東側に位置する森林の一部を、「北原区ふるさとの森」として整備しました。地域の住民が森林体験や森遊びをしながら「森林と触れ合う場所」として整備したものです。

～北原区ふるさとの森の整備から活用まで～



東京農業大学上原巖教授の
現地踏査



上原巖教授との打合せ



重機によるコース整備



杉の皮を剥く



間伐材を吊り上げる



間伐材を運ぶ



かんなで削る



チェーンソーで切る

枝使いカブトムシのクラフトも 飯山市北原区のふるさとの森が完成 ふるさとの夏休み・宝物発見の旅も

飯山市の北原区にある「ふるさとの森」が整備された。この森は、地域の住民が活用できる場所として整備された。平成23年度の「地域発元気づくり支援金」を活用して、地元の住民が、同地区東側に位置する森林で、遊歩道の整備や森林内の自由空間スペースの整備、間伐材を活用したテーブル、ス、黒板などの製作・設置を行った。地区住民は、この森で、自然と触れ合う機会が増え、また、森林と触れ合う場として活用したいと考えている。近年増えている農作物などの鳥獣被害も、以前は生活の中で利用されていた「里山」に、生活様式の変化から、あまり人の手が入らなくなり、人と動物の間の緩衝帯としても機能していた里山が荒れた

ことも原因の一つではないかと考えられている。同地区では住民らに、改めて森の機能や役割などへの理解を深め、活用しながら次世代に引き継ぐための取り組みをしていきたいとしている。先月27日には、同委員会が主催する、この森の「ふるさとの夏休み・宝物発見の旅」が開かれ、神奈川県の家族12人が参加、整備

されたばかりの「ふるさとの森」でクラフト体験が行われた。参加者は周囲に落ちている木の枝などを材料に、カブトムシのクラフトづくりや、昔ながらのバチン作りなどを行った。同委員会では今後も森林への理解を深め、森林保全の意識の高まりにつなげるイベントをふさぎと

北信濃新聞
平成23年9月3日



完成したふるさとの森で行われたクラフト体験